

2022 年度研究助成 研究実績報告書

代表研究者	山岡 千鶴
研究テーマ	With コロナ時代に考える災害時にも持続可能な視覚障害者の日常生活を支えるサポートシステムの構築

<助成研究の要旨>

【研究目的】

本研究は以下の2つを目的として3つの研究プログラム(I~III)を実施した。

1. COVID-19 流行に伴うサポート減少が視覚障害者の日常生活と Quality of life に与えた影響を明らかにし、With コロナ時代における視覚障害者へのサポートシステムの課題を明確とする。
2. With コロナ時代における視覚障害者へのサポートシステムの課題を基盤とし、災害時においてもその日常生活を支えることができる平時からの持続可能なサポートシステムについて提言する。

【研究の概略】

I. COVID-19 の流行が視覚障害者の生活に与えた影響：統合的文献レビュー

<目的>COVID-19 流行が視覚障害者の生活に与えた影響に関する研究を概観し、その現状と課題を明らかにする。

<方法>COVID-19 の流行が視覚障害者の生活に与えた影響に関する現象を包括的に理解するため、Whittemore & Knaf1 (2005)による統合的文献レビュー(Integrative Review)を参考とした。Scopus と PubMed, CINAHL, 医学中央雑誌 Web 版を使用し、2022 年3月までの文献を検索した。検索用語は、視覚障害(Visual Impairment)および「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)」に関する統制語を含む用語を組み合わせた検索式を使用した。

<結果>国内外の COVID-19 が視覚障害者の日常生活に与えた影響に関する文献整理により、雇用・就業への影響、教育への影響、移動手段への影響、余暇活動への影響、サポート体制への影響、日常生活の変化に伴う身体的・心理社会的健康への影響が明らかとなった。

II. COVID-19 流行に伴うサポート減少によって変化した視覚障害者の日常生活の実態調査

<目的>COVID-19 流行が視覚障害者に与えた影響と日常生活における困難を明らかにする。

<方法>A県下の当事者団体に所属する視覚障害者 10 名を対象に、半構造化面接を用いて視覚障害者の日常生活の影響と困難についてのインタビュー調査を行った。

<結果>1)2)の研究結果から、国内外での COVID-19 が視覚障害者の日常生活に与えた影響は一致していると言えた。しかし、ガイドヘルパーに関することや他者とのつながりの変化に関しては日本独自の認識や経験をしていたため、他者とのつながりの視点でデータの再分析を行った。分析の結果、(1)感染対策を考慮したガイドヘルパーへのアプローチ、(2)社会における理解の不足や他人の目が気になる、(3)身近な人・友人とのつながりを保つ、(4)情報通信技術 (ICT)による交流への挑戦、という4つのメインテーマが明らかとなった。

III. COVID-19 に伴う視覚障害者の日常生活の変化と健康関連 QOL への影響に関するアンケート調査

<目的>COVID-19 流行に伴う視覚障害者の日常生活の変化と健康関連 QOL との関連を明らかにする。

<方法>全国の視覚障害者を対象にインタビュー調査に基づいて作成した COVID-19 に伴う視覚障害者の日常生活の変化と健康関連 QOL への影響に関するアンケート調査を行った。

<結果>COVID-19 流行に伴って変化した視覚障害者の日常生活においては、感染対策をとりながらの生活への困難感といった生活様式変化に対する認識よりも、支援者へのアクセシビリティの低下といったサポートに対する変化の認識が QOL 低下のリスク因子であることが示唆された。

【今後の展望】

本研究結果より、視覚障害者にとってサポート知覚が QOL の重要な因子であることがわかった。そして、欧米諸国ではパンデミックにおいて減少したフォーマルな資源によるサポートを家族や友人といったより身近でインフォーマルな資源によるサポートに移行することで補完していたが、わが国においてはインフォーマル資源があまり活用されていない傾向にあった。災害時にも視覚障害者が活用できるサポートシステムの構築に向けては、持続的なサポートに活用できるフォーマル資源の開発に加え、インフォーマル資源活用の促進・阻害要因を明確とし、その活用方法の検討に向けた施策が求められてくる。